

平成28年度地方創生関連交付金事業の個別評価結果

No	交付金種別	交付対象事業の名称	事業における実施項目	交付金を活用してH28年度に実施した詳細内容	外部有識者等からの評価		項目事業の今後の展開について	
					事業の評価	評価の理由	今後の方針	今後の展開内容
1	地方創生 加速化交付金	観光推進体制の強化と消費を誘発する観光の仕組みづくり	観光推進体制の強化	4~7月 委託契約(契約額6,000,000円)、コンサル会社との調整 地域DMO設置準備会(観光まちづくり推進懇話会)開催 9月 第1回会議開催 12月 第2回会議開催 3月 第3回会議開催 地域DMO計画策定会議開催 9月~3月 毎月1回計7回会議開催 観光関係者ヒアリング調査 8~9月 観光まちづくり推進懇話会メンバー14団体 成果物 「小田原地域DMO事業計画書」、 地域DMO平成29年4月1日発足 【事業費】委託料6,000,000円	KPI達成に有効であった	本市の観光推進体制を強化するため、市内観光関連団体の協力のもと、観光プラットフォーム(地域DMO)を小田原市観光協会内に立ち上げることができ、今後、さらなる観光振興に向けた環境が整った。	予定どおり事業終了	市内の観光関連団体と合意形成を図り、(一社)小田原市観光協会に地域DMO機能を設置し、平成29年4月1日付で地域DMO機能がスタートしたことにより、当該事業は目的を達成し事業としては終了。引き続き、地域DMO機能維持のため、(一社)小田原市観光協会と二人三脚で観光推進に取り組んでいく。
2			時代が見えるまち歩きアプリ「あるくべえよ」の開発・導入	4~6月 プロポーザル審査・契約(契約額 24,000,000円) 7月 観光振興関係団体で構成された第1回検討会議開催 10月 第2回検討会議開催 12月 第3回検討会議開催 2月 第4回検討会議開催 3月 テスト版アプリ公開 4月17日 正式版公開 (概要) アプリ名:小田原市公式観光アプリケーション「小田原さんぽ」 内容:観光地検索、モデルコース検索、イベント検索。仮想空間体験、ポイントラリー機能、記念写真撮影機能など 【事業費】委託料24,000,000円	KPI達成に有効であった	市内650スポットの情報とともに、市内観光関連団体や庁内の関係部署から要望が多くあった仮想空間体験ポイントを充実させたアプリケーションを開発することができ、今後、まち歩き観光のさらなる推進に向けた環境を整えることができた。	事業の継続	仮想空間体験ポイントなどに周知看板を設置するなど、PRに尽力し、利用者の更なる増大を目指す。また、ポイントラリー機能や記念写真撮影機能を活用し、リピーターに利用してもらえる仕組みを検討していく。
3			小田原が誇る表裏の英雄・北条五代と風魔忍者 認知度向上作戦	①(仮称)北条五代物語の発行 ・歴史小説家伊東潤氏に、北条氏の大河ドラマ化のPRにつながる著作の執筆を依頼し、執筆を完了した。 ②交通事業等とのタイアップによる観光ツアー造成及びPR ・JR東海及びJR東日本との連携により、観光ツアー造成及びPRを行い、都市部から本市への「人の流れ」を造り出した。 ・本市の外国人観光客として実績の高い台湾を対象とした重点的にPR事業を行い、本市への誘客を造り出した。 【事業費】報償費5,000,000円、委託料4,798,755円	KPI達成に有効であった	歴史小説家の伊東潤氏に北条氏康にスポットを当てた作品を執筆していただくとともに、交通事業者とのタイアップ事業では、主要駅でのPRをはじめ、各種旅行商品を造成し、誘客を図った。また、台湾向けには、WEB上でPRを行い、事業目的である小田原の各種資源を活用したPRを行うことができた。	事業内容の見直し(改善)	詳細事業の効果検証を行い、効果的に事業を推進できるように詳細事業の追加・変更を行う。
4			千年のなりわい「木の文化」を活かした魅力向上策	本市の観光の玄関口である小田原駅等の施設に、地域産木材を使ったしつらえを施し、地域の「木の文化」を観光客にアピールするとともに、地場産業の振興及び観光の間口の魅力向上にもつなげた。 委託料 10,331,640円	KPI達成に有効であった	観光客を含む回遊客に、木の持つ温かみや良さをアピールしつつ、施設の利便性及び魅力を向上させることに寄与している。 小田原駅の自由通路から東口方面への雰囲気づくりは充実してきている。一方、西口方面はまだ改善の余地があるので、関連企業とも連携して魅力の向上を図りたい。	予定どおり事業終了	—

平成28年度地方創生関連交付金事業の個別評価結果

No	交付金種別	交付対象事業の名称	事業における実施項目	交付金を活用してH28年度に実施した詳細内容	外部有識者等からの評価		項目事業の今後の展開について	
					事業の評価	評価の理由	今後の方針	今後の展開内容
5	地方創生加速化交付金	創業するなら小田原！「創業支援×遊休不動産活用」～小田原ならではの雇用創出とまちの再生～	遊休不動産の実態調査	調査会社と委託契約を結び、①調査の目的②調査エリア③調査項目④スケジュール⑤取り組み体制について打合せを行い、8月1日より小田原市内の4エリアに絞って実態調査を実施。なお2月にHP「県西2市8町ポータルサイト」が完成、小田原市を含めた2市8町の物件情報がこのページより閲覧することが出来るHPとなっているため、今後は物件情報の共有や魅力発信事業で制作するHPのリンクなどにより創業者への情報発信ツールとして活用していく。その他レポートを作成、今後の小田原における空き家・空き店舗利用への提言等を取りまとめた。 委託料 5,799,600円	KPI達成に有効であった	小田原の主要箇所を調査、基礎資料として当年空き家ツアーを開催するなど効果的な調査を実施出来た。併せて調査地区の効果的な活用策もレポートに取り纏めることが出来た。 官民連携により遊休不動産の活用を進めて行くことは大切だと感じる。	事業の継続	28年度の情報を各HPリンクによる情報共有など進めていく。
6			不動産遊休活用企画	空き家・空き店舗実態調査を実施した調査内容を受けて、2月と3月に調査地区を中心とした「空き家ツアー」を栄町、国府津地区にて実施。徒歩で小田原を巡り、空き家・空き店舗や実際のリノベーション事例を見つ、周辺環境なども知ってもらうツアー。所要時間2時間ほどでより関心の強い方には、終了後相談会も実施。 委託料 500,000円	KPI達成に有効であった	創業塾受講者を対象とした空き家ツアー開催により小田原での創業についての魅力を伝えることが出来た。また実際の創業者との会話の中で創業の苦労話なども聞くことが出来効果的であった。 なお、空き家を物件化して、空き家自体に価値を持たせる取組も一つの活用方法として考えられる。	事業の継続	29年度もツアー回数を増やして創業希望者の参加を促していく。
7			創業塾開催費創業支援スキーム構築	まち元気小田原が5月に実施した起業スクールと連携しながら、秋に「第3新創業市 創業塾」講座を7回シリーズで開催、述べ230名が受講、その他オープニングイベントやビジネスプランコンテストを開催し、小田原での創業を促した。また1年間の取りまとめレポートを作成し、金融機関、行政、橋商工会などと創業スキームを共有。 委託料ほか 7,886,928円	KPI達成に有効であった	創業塾を通じて今年度5名が創業、大いに成果を挙げることが出来た。 関連した取組として、高校生などに進路を考えるに当たって、ベンチャーなど創業の道があることを知ってもらうセミナーの開催を官民連携によりできたことは非常に良かった。	事業の継続	29年度も起業スクール及び創業塾を開催。
8			ファンド設立に伴う調査	創業支援者（金融機関や会議所、行政など）の方を主とした「創業者支援セミナー」を3回開催【計92名参加】、3回のセミナーでの創業のポイントについての取りまとめや金融情報を取りまとめたレポートを作成、その他創業塾ビジネスプランコンテストではブチクラウドファンディングを企画、実施など行ってきました。なお、レポートでは当チームが取りまとめた『小田原箱根ファンド(仮称)モデル案』に掲載。(セミナー)謝金ほか1,037,478円	KPI達成に有効であった	セミナーやレポート作成による創業情報の共有が図られたと共に寄附型のファンドモデルを提案、今後の創業資金調達策を取りまとめることができた。	事業の継続	ファンドモデルを世襲して当地域内で創業する方を対象とした事業を実現に向けて進めていく。
9			魅力発信事業	小田原における創業の魅力を伝えるため周辺市町共に都心部へ3回PR事業を展開、またHPを通じて創業者のインタビューや小田原地域の魅力発信や周辺市町と連携したモデルコース(案)などを製作、小田原での創業をより具現化できるような内容を構築。 委託料 8,898,000円	KPI達成に有効であった	小田原での創業に関する情報をひとつに取りまとめられた点や小田原で創業した人のインタビューなど通じて小田原の魅力を発信することができた。	事業の継続	HP管理は委託業者が継続して更新など行い、小田原での創業情報を発信していく。

平成28年度地方創生関連交付金事業の個別評価結果

No	交付金種別	交付対象事業の名称	事業における実施項目	交付金を活用してH28年度に実施した詳細内容	外部有識者等からの評価		項目事業の今後の展開について	
					事業の評価	評価の理由	今後の方針	今後の展開内容
10	地方創生加速化交付金	忍者のマーケティング・セールス推進事業	日本忍者協議会負担金	1マーケティング調査 2広域周遊ルートの旅行商品化促進 3「忍者」文化の発信 (1)イベント開催(忍NINパーティー・企画展「THE NINJA-忍者ってナンジャ!?」・忍者まつり) (2)広報活動(忍者の日イベント・忍者についてプレスリリース・) (3)「Legend of The Ninja」の国内外放送拡大 (4)公式ホームページ及びSNSでの情報発信 4自主財源の確保に向けた取り組み (1)個人会員の募集(忍者ミーティング開催・HPへの通販販売サイト開設・「忍者」とのコラボレーション商品・サービス開発促進 【事業費】負担金5,000,000円	KPI達成に有効であった	忍者のプロモーションやマーケティング、ファミトリップなど各種事業を行うことにより、忍者の広くPRすることができた。	事業内容の見直し(改善)	詳細事業の効果検証を行い、効果的に事業を推進できるように詳細事業の追加・変更を行う。
11		未病の戦略的エリア「未病いやしの里」構築事業(県西地域活性化プロジェクト)	「未病を改善する」健康生活普及促進事業	小田原食品衛生協会と業務委託契約を締結し、「健康具たくさん味噌汁」コンテストを実施。広く周知するための発表会や試食、レシピの配布を行い、健康情報の発信などを行った。 委託料 948,000円 血管年齢測定器の7測定速度等を改善し円滑化を図るため、加速度脈波測定器の更新用ソフトを購入した。 備品購入費 51,840円	KPI達成に有効であった	高血圧予防につながる減塩を意識した「健康食」を市民を巻き込んで開発し、健康情報とともに発信することで、広く普及啓発ができ、健康意識の高揚につながった。	事業の継続	食品衛生協会会員(プロ)による健康食メニューの考案を行い、市内飲食店で販売できるようにすることで、食品を扱う方と市民への健康意識の高揚につなげる。
12			歴史的建造物・岡田邸活用事業	・一般公開のための臨時職員を4名採用し、平成28年5月から、週4日及び祝日に一般公開を行った。(開館日数172日、来館者数7,005人、賃金633,930円) ・公開にあたり、来館者の危険排除及び美観保持のため、茶室及び待合の一部を最低限修繕した。(198,366円)	KPI達成に有効であった	対象建築物は、小田原城跡から西海子・小田原漁港方面への誘客、近接する小田原文学館との連携を図りながら公開することで、回遊性を向上させることに寄与している。岡田邸に限らず、歴史的建造物は、いかに観光との結びつきを強めていけるかがカギ。	事業の継続	対象建築物は、由緒や立地の面で歴史的観光資源としての素質が非常に高いため、一般公開等着実に保全するとともに、所有者と協議を行いながら、公開日数の拡大及び公開時間の延長を検討していく。
13	地方創生推進交付金	地域とともに取り組む回遊性向上事業～来訪が促す地場産業の振興～	観光資源回遊・まち歩きパンフレット作成事業	小田原の観光資源である「なりわい」と「邸園(邸宅と庭園の造語)」を紹介するまち歩きに特化したパンフレット、小田原まち歩きガイドブック「あるってこ～小田原まち歩き～」を、平成29年3月に(一社)小田原市観光協会から発行した。発行部数10万部。観光案内所ほか市内各所にて配架し、小田原のまち歩き観光を紹介する新たなツールとして活用することとした。 【事業費1,735,000円】	KPI達成に有効であった	KPIの実績値からも事業の効果があつたと考えらえる。	予定どおり事業終了	パンフレット発行により、当該事業については事業終了。今後、観光客の声も聴きながら、増刷や改定など見直しを行っていく。
14			魚ブランド化促進事業	小田原で漁獲される豊富な魚の価値と可能性を内外に広く伝えることで水産業振興を図るため、水産関係団体等とともに「小田原の魚」の認知度向上と消費拡大に向けた取組みを実施した。 需用費 19,440円 委託料 239,400円 負担金補助及び交付金 1,000,000円	KPI達成に有効であった	水産地方卸売市場における地魚の取扱金額の向上に寄与した。	事業の継続	事業内容を精査しながら、事業については、継続して実施していく。

平成28年度地方創生関連交付金事業の個別評価結果

No	交付金種別	交付対象事業の名称	事業における実施項目	交付金を活用してH28年度に実施した詳細内容	外部有識者等からの評価		項目事業の今後の展開について	
					事業の評価	評価の理由	今後の方針	今後の展開内容
15	地方創生推進交付金	地域とともに取り組む回遊性向上事業～来訪が促す地場産業の振興～	交流促進施設等整備事業	交流人口の拡大と小田原の魚の消費拡大を通じて、水産業の振興と地域の活性化を図ることを目的に、小田原漁港交流促進施設を整備するため、実施設計業務を行った。 委託料 23,716,800円	KPI達成に有効であった	小田原漁港交流促進施設の入込客数の目標を達成するために計画通り事業を遂行できた。	事業の継続	事業内容を精査しながら、事業については、継続して実施していく。
16			小田原みなとまつり開催事業	小田原漁港を中心に市民及び観光客に広く水産業を紹介するとともに、港を海と人とのふれあいの場として、地域漁業の活性化を図り、さらに、小田原の地魚の魅力を発信するため、みなとまつりを8/7(日)に開催し、55,000人の来場者となった。また、1週間前にハルネ小田原でプレイベントを開催した。 負担金補助及び交付金 4,200,000円	KPI達成に有効であった	水産地方卸売市場における地魚の取扱金額の向上に寄与した。	事業の継続	事業内容を精査しながら、事業については、継続して実施していく。
17			小田原地下街「HaRuNe小田原」における地場産品のブランディング・魅力発信事業	小田原地下街「ハルネ小田原」において、水産市場夕市を開催することにより、新鮮な地場産の魚の消費拡大を推進するとともに、来訪者が水産市場のにぎわいを体験する新たな機会を創出する。また、夕市に新鮮な魚を提供するため、一本釣り漁業の計画的な操業の確立に向けた調査操業を実施した、(夕市開催日:12/8～14の日曜日を除く6日間) 委託料 158,067円	KPI達成に有効であった	水産地方卸売市場における地魚の取扱金額の向上に寄与した。	事業の継続	事業内容を精査しながら、事業については、継続して実施していく。